

平成 28 年度第 1 回南魚沼市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成 29 年 1 月 26 日 (木) 13 時 45 分
2. 場 所 南魚沼市図書館 (駅前図書館本の杜) 多目的室
3. 出席者 南魚沼市長 林 茂男
南魚沼市教育委員会
教育委員 西野 仁
角谷 正雄
今井 晶子
川島 亜紀子
教育長 南雲 権治

(事務局関係)

教育部長 中島 栄一、学校教育課長 大嶋 雅子、
社会教育課長 佐藤 弘、子ども・若者育成支援センター長 佐藤 昭雄、
管理指導主事 長澤 俊英、管理指導主事 山崎 喜久治、
学校教育課参事 上村 忠雄、学校教育課学校庶務主幹 佐藤 丈夫、
学校教育課施設主幹 遁所 優、社会教育課推進主幹 佐藤 公男
総務部長 今井 久夫、総務部部参事 清水 明、
企画政策課長 片桐 克巳、企画政策課行革主幹 中島 健

4. 協議事項 (1) 学びの郷南魚沼プランについて
(2) 給食センター調理業務委託について
(3) 大巻地区学区再編について
(4) その他

5. 内 容

○開会 (企画政策課長)

○挨拶 (林市長)

あらためまして、あけましておめでとうございます。昨年 11 月末に市長に就任してから、ようやく 2 か月がたちましたが、こうして教育委員の皆さん全員が揃って顔を見るのは今回が初めてではないかと思えます。

首長が教育委員の皆さんとこうした会議を持つという、時代に即したといいますか、時代の要請がそうした形になってきたのではないかと考えています。

就任後まだ 2 か月ですが、学校の先生方や、社会的にも大変評価されている子ども・若者育成支援センターなど、現場で働いてる皆さん一人一人から機会あるたびに意見をお聞きし、その熱意や志の高さなどを感じ取りました。こうした皆さんの声や地域の皆さんの要請にこたえていく取組として、教育に関してはこの会議が行政の方向を決める位置づけになるとの思いで緊張感を持ちながらやっていきたいと思えます。

財政状況の厳しさは言うまでもないことですが、現場の声をよく聞くことに努めたいと思っています。行政の一番の課題となっている人口減少については、自分や家族の気持ちに関わ

らず、この地域から出ていかなければいけない、というような地域にしないよう教育も含めて行政が地域の皆さんと一緒にあって一所懸命取り組んでまいります。

今日は委員の皆様から様々なご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○協議事項（進行：林市長）

（１）学びの郷南魚沼プランについて

教育長から、これまでの経過説明、その後、西野教育委員より資料１－１、１－２、１－３により、学びの郷南魚沼プランのグランドデザインについて説明があった。

【説明のポイント】

「後期教育基本計画～笑顔あふれる教育プラン～」を策定し、それに基づき学びの郷南魚沼プランのグランドデザインを作成した。資料１－２のある通り「学びあい、教えあい、伝えあい、そして輝く、わたしと地域」が基本理念。市民主体の学びの場として、コーディネーターと共に新しいプログラムを企画・立案する場所として、「たんけん南魚沼」、「市民カレッジ」、「幸齢義塾」に取り組む体制づくりを進めていきたい。

教育長 教育計画に基づいて会議を重ねグランドデザインができたということを知り、市長も承知しておいていただきたい。今年度の会議の中でさらに具体化を図っていききたい。

市長 行政の立場から言うと、一番これから取り組まなければいけないのは、教育関係では生涯学習をどうするのかということ。現体制なのか、もう少し違う見方もあるのか、それを確認していききたい。

西野教育委員 大学教育は知識の教育と考え方の教育であり、知恵まで授けるわけではない。そうするとその知恵を教えるのは企業で言えば社内研修。しかし、（この地域のような）中小企業では社内研修というのは十分でないかもしれない。若者が帰ってきて、この地域の人材として活躍する時に、知恵を授けるような場があれば、もっとその人材を活用できると思う。

角谷教育委員 今の説明を聞いて、若年性認知症とか行き場が少ない人についても、将来的に介護の事業などとうまく連携して生涯学習に取り込めれば良いと思う。生涯学習などにより本人が自信を取り戻して、明るくなる部分もあると思う。少し異なる分野ではあるが、そういったところにも少し入り込めたらいいと感じた。

市長 学びの郷南魚沼プランにつきまして、皆さんの意見をお聞かせいただいた。この学びの郷南魚沼プランについては他に何かご意見はありますか。

一同 なし

市長 それでは、学びの郷南魚沼プランについては、これで終わります。

（２）給食センター調理業務委託について

教育長による概略説明のあと、資料２を用いて事務局から説明

市長 （私も含め）皆さんご承知のとおりです。何か意見はありますか。

一同 なし

市長 それでは、給食センター調理業務委託については、これで終わります。

(3) 大巻地区学区再編について

教育長による概略説明のあと、「資料3」を用いて事務局から説明

角谷教育委員 大巻地区の小学校の今後については、3中学の統合の時に併せて地域の住民の方からも話が出ている。そして中学の統合が決まり、そのあと細かな説明を教育委員会で丁寧に行っている。私としては（住民の理解をいただきながら）よい方向に進んでいると認識している。

教育長 市長もそうだが、教育委員会としては統合を進める中で地域が慌てたり、その後も混乱しないように、八海中学校の統合については時間をかけてやってきた。その中で今回の小学校の統合対象となっている大巻地区においては、八海中学の統合の際も、城内地区と五十沢地区が魚野川の東側であるのにもかかわらず川を越えて城内中学校の校舎を活用しての統合に理解をいただいたということについて感謝しておりますし、その時から小学校の統合ということについて考えている地域の方もいたということだと思います。

市長 私が進め方については、地域の方からよい評価をたくさん聞いている。注意を払いながらやってもらっていることについて感謝したい。統合される中学、そして小学校について、それぞれ閉校を迎えるにあたりいろいろな行事が予定されると思います。これらにきちんと応えて、感謝を込める形をとりたいと思う。次年度はそういうことにも心を砕いてもらいたい。

角谷教育委員 （統合する小学校について）冬期間の通学でバスを使うなどいろんな方策があると思いますが、その点についても十分配慮していただきたい。

教育長 学区再編の中でもそれが一番心配されている。2.5キロを超えると通学バスが出る。大巻中学校の校舎を活用した場合、両校について2.5キロを超えているので、バスを活用しながら、1年生だけの学区や、雪で狭いようなところについては臨機応変に対応していきたい。ただ、協議会の中でそこをきっちり決めないと次の統合協議会に進めない、という議論がありましたが、教育委員会としては統合協議会の通学バス部会で問題なく対応していきますから、ということをお願いしています。問題が生じないように検討してまいります。

市長 今年の雪降り前、秋を過ぎたところに八箇峠トンネルが開く予定。その中で大巻地区の皆さんが一番懸念されているのは、あそこはその先のバイパスまで道路がないので県道にぶつかり交通量が大変多くなる。だいぶ歩道も整備されているが、特にその先を懸念する声が実際開通してくると多く出てくると思う。その点も配慮したほうがよい。

教育長 その件で建設部とも協議している。面と向かって統合協議会に話はないが、なるべく早く道路に歩道を設置し使えるようになるよう建設部と協議していきたい

今井教育委員 校名をどのように考えているか。

教育長 かなり難しい問題。今までと同じように校名検討部会を立ち上げてやって

いきたいと思っている。統合協議会が組織されたときにその辺の進め方を含めて検討したいと思う。

大巻小学校と五日町小学校があり、「統合をする、校舎は現大巻中学校の校舎を活用する」というところまではいいのですが、それぞれの学区の方々の思いがありますので、その点に配慮しながら学校名の決め方についても丁寧にやっていきたいと思う。過程を大事にしながら決めていきたい。

西野委員 きわめてプロセスを大事にしたと感じている。状況をどう打破するかというところからスタートした。その結果、いいところに落ち着くのではないかという気がする。これからもいろいろなところで統合を考えていかなければいけない場面があると思うが、その時への一つの試金石であったわけです。今後の方向性を出すにあたり、踏襲していく必要があると思います。

教育長 これからの課題は、子供たちを行政だけでは守り切れないので、地域でしっかり守るという体制づくりが必要。例えば、通学バスの問題でも、今までの学区では地区の皆さんが道路に立って見守り隊として（子供たちを）見守っている。（統合後）バスが出ることによってバスに乗れる人はいいんだけど、バスに乗れなくて中学校に行くには、結構負担が増える、など地域から話があった時にも、大巻地区のコミュニティというのはしっかりしていますので、そういった場合は、見守り隊を今の位置からもっと広げながらお願いします。という議論ができてる。まさに西野教育委員が言われたように、過程を大事にして話し合いを進めてきた成果が出ていると思っている。

市長 他に何か意見はありますか。

一同 なし

市長 それでは、大巻地区学区再編については、これで終わります。

(4) その他

市長 その他について委員の皆さん、何かありますか、事務局から何かありますか。

事務局 なし

市長 それではないようですので、以上を持ちましてすべての協議事項を終了します。

○閉会（南雲教育長）

市長が公約に掲げる「若者が帰ってこられる、住み続けられるふるさと 南魚沼」の実現のためにも、学びの郷南魚沼プランの充実を図ってまいりたいと考えています。本日は大変ありがとうございました。